

PATENT ABSTRACTS OF JAPAN

(11)Publication number : 06-320949

(43)Date of publication of application : 22.11.1994

(51)Int.Cl.

B60J 3/00

(21)Application number : 05-147134

(71)Applicant : ITSUSHIN KENKYUSHO:KK

(22)Date of filing : 13.05.1993

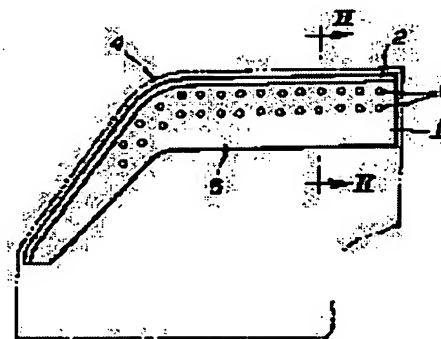
(72)Inventor : KIKUCHI TOSHIFUMI

(54) VISOR AND VISOR DEVICE FOR VEHICLE

(57)Abstract:

PURPOSE: To provide a visor which prevents infiltration of unpleasant wind breaking noise and rain water into a vehicle even when a window is slightly opened at the time of high speed traveling.

CONSTITUTION: A vehicle visor comprises a visor main body 1 constituted of a vertical sheet-like shielding plate in which an upper side thereof consists of a horizontal narrow width band-shape part and is of nearly the same shape as an upper side inner face of a vehicle window frame, namely, lateral width thereof is nearly the same as that of the window frame and vertical width thereof is slightly less than height of the window frame, and a plurality of through-holes 6 bored in the main body 1.



LEGAL STATUS

[Date of request for examination]

[Date of sending the examiner's decision of rejection]

[Kind of final disposal of application other than the examiner's decision of rejection or application converted registration]

[Date of final disposal for application]

[Patent number]

[Date of registration]

[Number of appeal against examiner's decision of rejection]

[Date of requesting appeal against examiner's decision of rejection]

[Date of extinction of right]

Copyright (C); 1998,2003 Japan Patent Office

(19)日本国特許庁 (J P)

(12) 公 開 特 許 公 報 (A)

(11)特許出願公開番号

特開平6-320949

(43)公開日 平成 6年(1994)11月22日

(51)Int.Cl.⁵

B 6 0 J 3/00

識別記号

庁内整理番号

C 9143-3D

F I

技術表示箇所

審査請求 未請求 請求項の数 6 書面 (全 5 頁)

(21)出願番号 特願平5-147134

(22)出願日 平成 5年(1993) 5月13日

(71)出願人 593116098

株式会社一進研究所

東京都荒川区西尾久 7 の30の 1

(72)発明者 菊池 敏文

東京都保谷市富士見町 2 の11の28

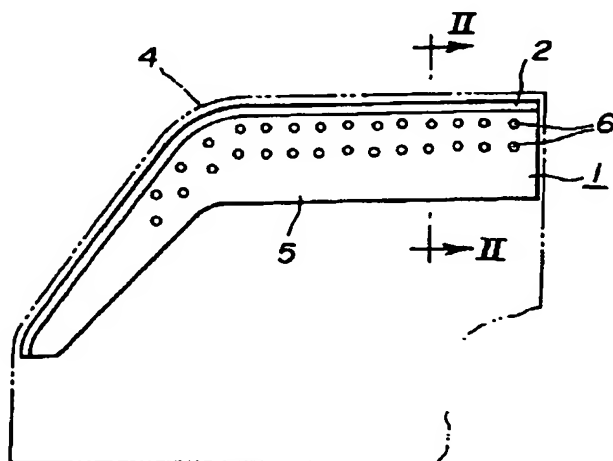
(74)代理人 弁護士 佐々木 敏雄

(54)【発明の名称】 車輛のバイザとバイザ装置

(57)【要約】 (修正有)

【目的】 高速で走行する時、窓を少し開放させても不快な風切り音や雨水が車内に浸入することがないバイザを提供する。

【構成】 上辺が水平な巾の狭い帯状部で構成され車輛窓枠の上辺内面とほぼ同一形状、即ち横巾が上記窓枠の横巾とほぼ同一で、縦巾が上記窓枠の高さより小さい垂直な板状の遮蔽板で構成されるバイザ本体 1 と、該本体に穿った複数個の透孔 6 とよりなることを特徴とした車輛バイザ。



【特許請求の範囲】

【請求項1】上辺が水平な巾の狭い帯状部で構成され車輛窓枠の上辺内面とほぼ同一形状、即ち横巾が上記窓枠の横巾とほぼ同一で、縦巾が上記窓枠の高さより小さい垂直な板状の遮蔽板で構成されるバイザ本体と、該本体に穿った複数個の透孔とよりなることを特徴とした車輛バイザ

【請求項2】上辺が水平な巾の狭い帯状部で構成され車輛窓枠の上辺内面とほぼ同一形状、即ち横巾が上記窓枠の横巾とほぼ同一で、縦巾が上記窓枠の高さより小さい垂直な板状の遮蔽板で構成されるバイザ本体と、該本体に穿った複数個の透孔とよりなり上記バイザ本体の上辺を車輛窓枠の上辺内側に沿わせて取り付けたことを特徴とした車輛のバイザ装置

【請求項3】上辺が水平な巾の狭い帯状部で構成され車輛窓枠の上辺内面とほぼ同一形状、即ち横巾が上記窓枠の横巾とほぼ同一で、縦巾が上記窓枠の高さより小さく成した下向きの「コ」字形形状より成る一対の垂直な遮蔽板で構成されるバイザ本体と、該本体の遮蔽板の夫々に穿った1乃至複数個の透孔とよりなることを特徴とした車輛のバイザ

【請求項4】上辺が水平な巾の狭い帯状部で構成され車輛窓枠の上辺内面とほぼ同一形状、即ち横巾が上記窓枠の横巾とほぼ同一で、縦巾が上記窓枠の高さより小さく成した下向きの「コ」字形形状より成る一対の垂直な遮蔽板で構成されるバイザ本体と、該本体の遮蔽板の夫々に穿った1乃至複数個の透孔とよりなり、上記バイザ本体の上辺を車輛窓枠の上辺内側に沿わせて取り付けたことを特徴とした車輛のバイザ装置

【請求項5】上辺が水平な巾の狭い帯状部で構成され車輛窓枠の上辺内面とほぼ同一で縦巾が上記窓枠の高さより小さく成した下向きの「コ」字形形状よりなる一対の垂直な遮蔽板と、該遮蔽板の一方に穿った1乃至数個の透溝及び他方に穿った切り欠き部で構成されるカバー部材と、このカバー部材とほぼ同じ長さで上記一対の遮蔽板の中間部に位置する中間仕切り板と、該板の両側に固定されかつ上記カバー部材の両側端部を覆う覆板とで構成される緩和部材とよりなり、該部材を上記カバー部材内に嵌合させたバイザ本体よりなることを特徴とする車輛のバイザ。

【請求項6】上辺が水平な巾の狭い帯状部で構成され車輛窓枠の上辺内面とほぼ同一で縦巾が上記窓枠の高さより小さく成した下向きの「コ」字形形状よりなる一対の垂直な遮蔽板と、該遮蔽板の一方に穿った1乃至数個の透溝及び他方に穿った切り欠き部で構成されるカバー部材と、このカバー部材とほぼ同じ長さで上記一対の遮蔽板の中間部に位置する中間仕切り板と、該板の両側に固定されかつ上記カバー部材の両側端部を覆う覆板とで構成される緩和部材とよりなり、該部材を上記カバー部材内に嵌合させたバイザ本体を設けたもので、上記カバー

部材の上辺を車輛窓枠の上辺内部に沿わせて取付けたことを特徴とする車輛のバイザ装置

【0001】

【発明の詳細な説明】

【この発明の分野】この発明は自動車などの車輛の窓に取り付けられるもので、日除けや風除けとして使われるバイザと、バイザ取付装置に関する。

【0002】

【この発明がなされた背景】夏場や気分が悪くなったとき、また車輛内での喫煙のときなど車輛の窓を少し開放させたい場合が屢々ある。しかし特に高速で走行している時等に、車輛の窓を開けると風切り音が激しく雨天の場合は雨が浸入するのを防止することができない。

【0003】

【この発明の目的】そこで本発明は高速で走行する時、窓を少し開放させても不快な風切り音や雨水が車内に浸入することがないバイザを提供することを目的としている。

【0004】

【この発明の特長と作用効果】本発明車輛のバイザおよびバイザ装置は、上辺が水平な巾の狭い帯状部で構成され車輛窓枠の上辺内面とほぼ同一形状、即ち横巾が上記窓枠の横巾とほぼ同一で、縦巾が上記窓枠の高さより小さい垂直な板状の遮蔽板で構成されるバイザ本体と、該本体に穿った複数個の透孔とよりなる。

【0005】而かしてこのバイザ本体を車輛の窓に取り付けるには、その帯状部の上面に両面感応性接着テープ等を介して窓の上辺の内側に貼着させ、バイザ本体の遮蔽板を窓枠より下方に吊下げられた状態とする。いま、本発明バイザ本体を取付けた車輛を走行させて窓を開けたいときは、ウインドガラスをその上端が上記遮蔽板の末端より下がらない位置まで開放させる。

【0006】この結果車輛内の空気は、風が遮蔽板に沿って流れることから透孔を通して外に導かれ車輛外に放出させることができ車輛内の空気の清浄を行なうことが出来るのである。また、上記不快な音の発生原因は車輛の窓の開放部分で風が激しい旋廻運動を行なうためと考えられる。この点本発明は上記遮蔽板が車輛が受ける風圧を緩和し且つ、風の流れをスムーズなものとすることで上記不快な風切り音を防止することが出来たのであり、遮蔽板の存在で雨天と雖も雨の浸入を阻止できたこと勿論である。

【0007】なお本発明を実施するに当って上記遮蔽板の透孔は、傾斜させた多数の透孔であることが好ましく、各成すことによって透孔が存在しても風が旋廻運動を行なうことがなく従って僅かな風切り音をも発することがないようにしたものであり、さらにこの透孔はその外側に露出する開口部の上端を、室内側の開口端の下端と同一若しくはそれ以下の位置となるようにすれば、僅かな雨でも車内に浸入する虞れがないのである。

【0008】また、本発明の車輛のバイザおよびバイザ装置は、上辺が水平な巾の狭い帯状部で構成され車輛窓枠の上辺内面とほぼ同一形状、即ち横巾が上記窓枠の横巾とほぼ同一で、縦巾が上記窓枠の高さより小さく成した下向きの「コ」字形形状より成る一対の垂直な遮蔽板で構成されるバイザ本体と、該本体の遮蔽板の夫々に穿った1乃至複数の透孔とよりなることもその特徴の1つである。

【0009】而かしてバイザ本体の上辺を適宜の手段で車輛の窓枠に貼装させ、車輛の走行時はウインドガラスを少し開放させ使用するものであるが、この場合遮蔽板は2枚で構成したから車輛の走行中に受ける風圧を緩和させ、両遮蔽板間には空気の間隔部が存在することによって所謂風切り音が発生しても車内には伝達し難くしたことであり、この遮蔽板の存在で雨天の日でも雨が車内に浸入しないのである。なお、実施に当って上記遮蔽板の夫々の透孔は夫々が水平方向で異なった位置に穿つようにするよい。これは雨天の走行の際、雨水が車内に浸入する虞れを確実に防止できるようにしたものである。

【0010】さらに、本発明の車輛のバイザおよびバイザ装置は、上辺が水平な巾の狭い帯状部で構成され車輛窓枠の上辺内面とほぼ同一で縦巾が上記窓枠の高さより小さく成した下向きの「コ」字形形状よりなる一対の垂直な遮蔽板と、該遮蔽板の一方に穿った1乃至数個の透溝及び他方に穿った切り欠き部で構成されるカバー部材と、このカバー部材とほぼ同じ長さで上記一対の遮蔽板の中間部に位置する中間仕切り板と、該板の両側に固定されかつ上記カバー部材の両側端部を覆う覆板とで構成される緩和部材とよりなり、該部材を上記カバー部材内に嵌合させたこともその特徴である。

【0011】而してカバー部材の上辺を車輛窓枠の内上辺に貼着等し、緩和部材をその中間の仕切り板が遮蔽板の中間に位置するようカバー部材に嵌合するものである。いま車輛の走行中風は遮蔽板の切り欠き部から、カバー部材に侵入し仕切り板に当るのでその風圧力は緩和されるので所謂風切り音の発生を防止出来たのである。

【0012】さらに外の風は、続いて仕切り板の上方から透溝を通る曲折した通路を経過することによってさわやかな風が車輛室内に供給されることになり、この結果車内の潑んだ空気は外に放出されるのである。なお上記仕切り板を設けたことで雨天の際でも雨水が車輛の室内に入らないこと当然である。

【0013】

【実施例の説明】図1で(1)はバイザ本体である。このバイザ本体(1)は上辺が水平な巾の狭い帯状部

(2)で構成され、車輛の窓枠(3)の上辺内面(4)と略々同じ形状、即ち多くは一方が下向きに折り曲った形状になっていて、その横巾は窓枠(3)の横巾と同一巾となっている。

【0014】(5)は上記帯状部(2)の一辺を下方に折り曲げた垂直は遮蔽板で、その縦巾は車輛窓枠(3)の高さより頗る短い通常窓枠(3)の約1/3程度であり、(6)はこの遮蔽板(5)に穿たれた多数の透孔である。

【0015】而してこの透孔(6)は図2でみられるように、傾斜させたものとするのが肝要でありしかもバイザ本体(1)を車輛に取付けたとき、その外側に露出する透孔(6)の開口部(7)の上端(8)が、その車輛室内側に露出する透孔(6)の開口部(9)の下端

(10)と同一若しくはそれ以下の位置となるような傾斜した透孔(6)とすることが好ましいのである。なお同図2で(11)は上記遮蔽板(5)の末端に嵌合させた断面凹字形のバックインであり、(12)は車輛のウインドガラスを示してある。

【0016】このバイザ本体(1)を車輛の窓(3)にとりつけるには、図示していないがその帯状部(2)の上面に、両面感応性接着テープあるいは接着剤を塗布して窓(3)の上辺(4)の内側に貼着する。この結果バイザ本体(1)の遮蔽板(7)は窓枠(3)より下方に吊下げられた状態となり、その末端に設けたバックイン

(11)はその一側面がウインドガラス(12)の外面と接するようにする。

【0017】而して本実施例バイザ本体(1)を取付けた車輛を走行させて、窓を開けたいときはウインドガラス(12)をその上端が上記遮蔽板(5)の末端より下らない位置まで開放させる。この結果車軸内の空気は風が遮蔽板(5)に沿って流れることから透孔(6)を通過して外に導びかれ車輛室内の潑んだ空気を外に放出させることができるのである。

【0018】また本実施例のような遮蔽板(5)を設けない車輛で、窓を少し開放させて走行すると所謂激しい風切り音を発する。これは上記開放部分で風が激しい旋廻運動を行なうためと考えられるが、本実施例に於ける透孔(6)は傾斜させた多数の透孔であるから、この部分で風が旋廻運動を行なうことがなく従って不快は風切り音を発することもない。

【0019】さらにこの実施例における透孔(6)はその外側に露出する開口部(7)の上端(8)を、室内側の開口部(9)の下端(10)と同一若しくはそれ以下の位置となるようにしたから雨天の日と雖も、雨が車内に浸入する虞れがないのである。

【0020】図3は他の実施例で遮蔽板(51)(52)が並設、即ちバイザ本体(1)を断面下向きの「コ」字形に形成し、それぞれの遮蔽板(51)(52)長手方向に多数の透孔(71)(72)を穿ったものである。なおこの場合外側に位置する遮蔽板(52)の透孔(72)と、内側に位置する遮蔽板(51)の透孔(71)とは、同一水平線上に位置しないように工夫することが肝要である。

【0021】而してこのバイザ本体（１）の上辺（２）を適宜の手段で窓枠（３）に貼装させ、ウインドガラス（１２）を少し開放させ使用するものであるが、この場合遮蔽板は（５１）と（５２）との２枚で構成したから車輛の走行中に受ける風圧を緩和させ、両遮蔽板（５１）（５２）間には空気の間部屋が存在することによって所謂風切り音が発生しても車内には伝達し難くなったのである。

【0022】また上記遮蔽板（５１）（５２）の透孔（７１）（７２）はそれぞれが水平方向で異なった位置に穿たれているから、雨水が浸入する虞れもなきものである。

【0023】図４乃至図６に示した実施例のバイザ本体（１）は、カバー部材（Ａ）と風の衝撃を緩和させる部材（Ｂ）で構成される。即ちカバー部材（Ａ）は断面が下向きの「コ」字形で、車輛室内側に位置する遮蔽板（５１）にはその長手方向に多数の透溝（７１）を、外側に位置する遮蔽板（５２）の長手方向には１つの比較的大きな切り欠き部（７２）がある。

【0024】緩和部材（Ｂ）は、上記カバー部材（Ａ）とほぼ同じ長さで上記遮蔽板（５１）（５２）間の中心部に位置できる「Ｓ」字形の中間仕切り板（２３）と、その両側に垂直に固定されかつ上記カバー部材（Ａ）の両側端部を覆う覆板（２１）（２２）で構成されている。なお図中（２４）は上記仕切り板（２３）の外面下方に穿たれた嵌合溝で、上記カバー部材（Ａ）の外側の遮蔽板（５１）の末端が嵌合できるようになっている。

【0025】而して図６に示すようにカバー部材（Ａ）の上辺を車輛窓枠（３）の内上辺に貼着する。次いで緩和部材（Ｂ）をその中間の仕切り板（２３）が遮蔽板（５１）（５２）の中間に位置するようカバー部材

（Ａ）に嵌合する。この場合上記仕切り板（２３）の上端がカバー部材（Ａ）の天井に当接しない位置となるよう設計上の配慮がなされている。

【0026】いま車輛の走行中風は切り欠き部（７２）からカバー部材（Ａ）に侵入し、仕切り板（２３）に当たってその風圧力が緩和されるのであって、このことは同時に所謂風切り音の発生も防止することになる。続いて風は仕切り板（２３）の上方から透溝（７１）を通る曲折した通路を経過することによって、さわやかな風となり車輛室内に供給されることになるのである。なお上記仕切り板（２３）を設けたことで雨天の際でも雨水が車輛の室内に入らないこと当然である。

【図面の簡単な説明】

【図１】バイザ本体全体の正面図

【図２】図１のⅠⅠ…ⅠⅠ線拡大一部切り欠き断面説明図

【図３】第２実施例の断面説明図

【図４】第３実施例の断面説明図

【図５】同緩和部材の斜視図

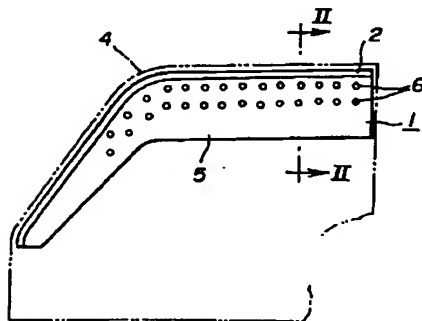
【図６】カバー部材と緩和部材を嵌合させた状態における縦断拡大説明図

【図７】本案バイザ本体を取付けた車輛の側面説明図

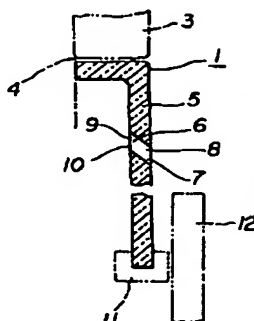
【符号の説明】

- (１)・・・・・・・・・バイザ本体
- (２)・・・・・・・・・帯状部
- (３)・・・・・・・・・窓枠
- (４)・・・・・・・・・上辺内面
- (５)・・・・・・・・・遮蔽板
- (６)・・・・・・・・・透孔
- (１２)・・・・・・・・・車輛のウインドガラス

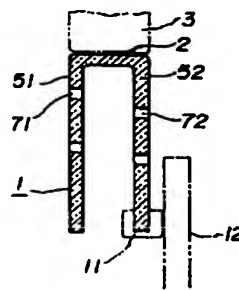
【図１】



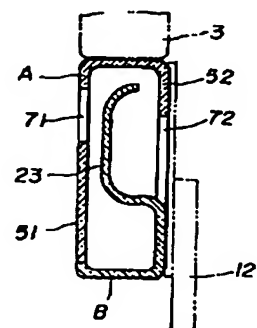
【図２】



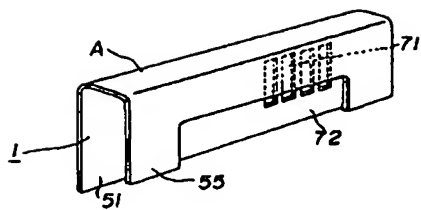
【図３】



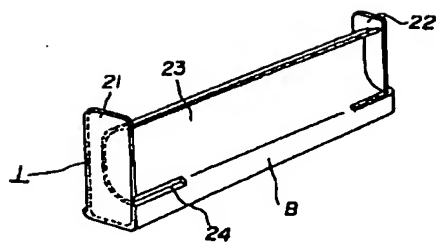
【図４】



【図4】



【図5】



【図7】

